

大阪湾から上がってくる海水をせき止め、淡水を蓄えることで、淀川の水を暮らしを支える

● 暮らしを支える

淀川大堰  
大堰から上がってくる海水をせき止め、淡水を蓄えることで、淀川の水を暮らしの中で使えています。淀川ゲートウェイができて、船も通れるように!

● 船のエレベーター

毛馬閘門  
潮の満ち引きなどによって水面の高さが違う淀川と大川。その2つの川をエレベーターのように船が行き来できるように、水位を調整します。

● 25mプールは小学校用プールのサイズ

毛馬排水機場  
大雨でまちの川が溢れそう! そんな時に活躍。1秒で25mプール\*が空になるくらい日本の排水能力で大川から淀川に水を排出します。

● まちを水害から守る

川の施設  
水辺の暮らしにもある

日本初の川の大工事

約100年前につくられた淀川

淀川は、実は明治時代に人工的につくられた川。もともとは今の大川が淀川の本流でした。明治時代の淀川大洪水で、人々の暮らしに大きな被害が出たことをきっかけに、たくさんの方が行動を起こし、ついに、新しく川を掘り、洪水を防ぐための川の川の大工事が、日本で初めて行われました。

都島区北部を語るうえで欠かせない淀川って?

都島区の北側を流れる大きな川・淀川は、日本最大の湖・琵琶湖から、大阪市を貫いて大阪湾まで流れる一級河川。

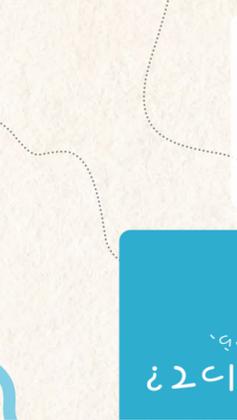
上流の瀬田川から宇治川へと名前を変え、京都府・大阪府の境目付近で桂川と合流し、淀川になります。

身近なまちと自然を癒し

都島 Meets NATURE

フェノロジーカレンダー

フェノロジーとは、自然の現象を観察し、記録することです。季節の移り変わりや、動植物の生活リズムを知ることで、自然とつながる感覚を育みます。



都島 Meets NATUREとは

都島 Meets NATUREプロジェクトは、都島区北部の淀川と大川に囲まれた「豊かな自然とゆとりある空間」という魅力を活かした、まちづくりのプロジェクトとしてスタートしています。こどもからお年寄りまで、まちの歴史や文化、豊かな自然を体感しながら、考えたり学んだりすることで、まちへの愛着を育むきっかけになることをめざしています。

都島 Meets NATURE ハンドブックと一緒に使おう

このカレンダーを見てもっとまちのことを知りたくなったり、自然あそびを楽しみたいと思ったらハンドブックを持ってまちや公園に出かけて、より深く楽しんでみてください。



都島 Meets NATURE ハンドブックと一緒に使おう

このカレンダーを見てもっとまちのことを知りたくなったり、自然あそびを楽しみたいと思ったらハンドブックを持ってまちや公園に出かけて、より深く楽しんでみてください。

参考資料

『淀川のワンドについて!』国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所(平成28年2月)

『淀川の野草』(財)河川環境管理財団(平成11年3月)

『生きものから見た大阪の自然』(財)三菱UFJ環境財団(平成19年3月)

『大阪市域生き物調査』大阪市環境学習情報サイトなごエコスタイル

『みどりのウォーキングコースマップ都島区』大阪市ゆとりとみどり振興局

淀川河川事務所WEBサイト

発行年月:2026年3月

発行元:大阪府都島区役所(お問合せ:総務課06-6882-9916)

企画・編集・制作:株式会社ワイキューブ・ラボ

デザイン:株式会社サトウデザイン/イラスト:山手澄香

制作にあたりご協力いただいた皆様(敬称略):環境省希少野生動物植物種保存推進員 河合典彦

## 都島区北部マップ



都島区北部には、他のエリアにはない自然や景色がたくさん。お散歩など日々の暮らしの中で、ぜひたくさん見つけてみてください。

淀川沿いで見る夕日や朝日は絶景。飛行機も頭上を低空で通過!

● 砂州が広がっていた名残の橋脚が今も残っている

● 1969年高校生が再発見! イタセナバラ発見の地の碑

● この辺りまで砂州が広がり、1980年代頃まで歩けたイタセナバラやアユモドキなど希少な魚の聖地だった

● 700mにわたって続く緑道どんぐりの木がたくさん!

● 立派なケヤキの木立ち姿の美しさに注目

● 冬は水鳥が集まる観察スポットに

● 水際の遊歩道

● 毛馬の閘門・水門・排水機場を一望! 毛馬橋が架かったまでは渡し船があった

● おすすめビュースポット



## 都島区北部のスポット

- ### 1 淀川神社

住所:都島区毛馬町1丁目2-11

十五柱の神々を祀る地域の守り神。与謝蕪村ゆかりの地で、銅像もあります。
- ### 2 毛馬水門・淀川大堰

おおせき

暮らしを支える川の施設。どちらも横にある閘門を通して船が往来できるようになっています。

住所:都島区毛馬町3丁目7-8
- ### 3 淀川河川公園

(毛馬地区・赤川地区の一部)

国内でも珍しい生き物や街中の公園には見られない生き物に出会える自然豊かな国営公園。無料のBBQエリアも!

住所:都島区大東町~毛馬町
- ### 4 大東商店街

JR城北公園通駅から西にまっすぐ伸びる商店街。下町の雰囲気も残りつつ、新しいお店もできています。

住所:都島区大東町1丁目
- ### 5 蕪村公園

毛馬で生まれた与謝蕪村の俳句が13個の句碑になっています。大きな柳やどんぐり、桜など季節の木がたくさん。

住所:都島区毛馬町1丁目1-12

# 都島 Meets NATURE フェノロジー カレンダー

フェノロジー  
カレンダーとは

季節のうつろいを身近な自然の変化で感じるカレンダーです。サクラの開花、セミの鳴き声、紅葉の色づきなど、都島区北部で感じられる「季節のサイン」を整理しています。日々の暮らしの中で見つけられる「季節のサイン」を集めることで、自然とのつながりを再発見してみましょう。  
※フェノロジー (phenology) は、季節のうつろいを植物や動物の変化から読み取る学問で、日本語では「生物季節学」と呼ばれています。

春 (3月・4月・5月)

夏 (6月・7月・8月)

秋 (9月・10月・11月)

冬 (12月・1月・2月)

そら  
まち  
公園  
自然

年中見られる鳥 コゲラ、ヒヨドリ、シジュウカラ、セッカ、カワセミ **レア**

春に鳴く鳥 ヒバリ、ウグイス、メジロ、キジ



春に花を咲かせる木  
ソメイヨシノ、  
オオシマザクラ

夏の鳥(わたり鳥) ツバメ、オオヨシキリ、コアジサシ

**レア** カジノキ

おもしろい形の  
葉っぱは和紙の原料

カジノキの葉

セミ  
クマゼミ、アブラゼミ



テントウムシ ナミテントウ、ナナホシテントウ

同じ種類なのに模様はたくさん

春の野草

ナズナ、ホトケノザ、ヨモギ、オオバコ、ノイバラ、シロツメクサ、  
オオイヌノフグリ、カタバミ、ギシギシ、ナヨクサフジ、カラスノエンドウ  
カンサイタンポポ、セイヨウタンポポ、**ワンドスゲ** **レア**



カンサイタンポポ セイヨウタンポポ

違いを比べてみよう

日本で見られるのはほぼ都島区の淀川だけ!

トンボ チョウトンボ、アオモンイトトンボ、ウスバキトンボ、ギンヤンマ



チョウトンボ

ときには河川敷で乱舞

鳴く虫 マツムシ、クツワムシ、エンマコオロギ、キリギリス



マツムシ

バッタ・カマキリ トノサマバッタ、ショウリヨウバッタ、オンブバッタ、オオカマキリ

夏の野草 茎が四角い 淀川の堤防にたくさん!  
ネジバナ、アレチハナガサ、セイバンモロコシ、ノアサガオ



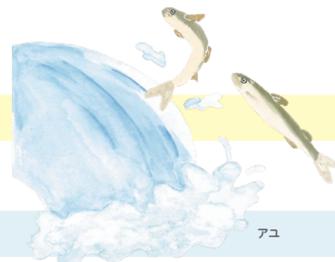
オギ

秋の野草

アキノエノコログサ、ヨシ(アシ)、アシ、オギ、  
セイタカアワダチソウ、セイタカヨシ、チガヤ、オナモミ、コセンダングサ

年中見られる水辺の鳥 カルガモ、アオサギ、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、カウ

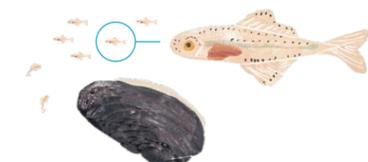
アユの遡上 大阪湾から淀川を通過して上流へ



アユ

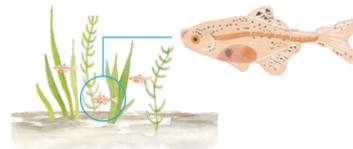
汽水域の生き物 ボラ、スズキ、クロダイ、マハゼ、ウナギ、モズガニ、テナガエビ

**レア** イタセンバラの一生 イタセンバラは国の天然記念物で淀川のワンドに生息する珍しい魚です。しかし近年、その姿が確認されていません。再び淀川に戻る日をめざし、地域一体となって保全活動が続けられています。



泳出期 えいしゅつき

二枚貝から  
泳ぎだし  
成長を始める



成長期 せいちようき

成長して  
秋の繁殖期に  
そなえる



繁殖期 はんしよくき

二枚貝の中に  
卵を産み  
3-4日でふ化する



越冬期 えつとうき

仔魚はそのまま  
二枚貝の中で  
厳しい冬を乗り越える

**レア** カヤネズミの巣

日本で最小のネズミ、草地に巣作り



カヤネズミの巣

冬の水辺の鳥(わたり鳥)

ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、オオバン、ユリカモメ



ユリカモメ

オオバン

キンクロハジロ (オス)

水上を走る!

暮らし

地域の行事や  
季節のイベントなど

- 淀川神社お相撲さん握手会 (3月)
- 淀川水系一斉美化アクション (3月)



- 天神祭 (7月)
- 淀川神社夏祭り (7月)
- 淀川地域盆踊り (8月)
- 大東地域盆踊り (8月)



毛馬きゅうり



- なにわ淀川花火大会 (10月)
- 淀川神社秋祭り (10月)
- 大東フェスティバル (10月)
- 淀川地域餅つき大会 (11月)



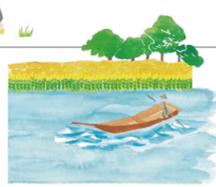
か とうろく  
柳散り清水涸れ石処々

晩秋の水辺で柳の葉は散り、枯れ果てた川のあちこちから石が顔を出す、そんな冬の始まりが描かれた句で、蕪村公園の柳から情景が伺えます。

よさぶそん  
与謝蕪村の  
俳句

つづみなが  
春風や 堤長うして 家遠し

春の風の中、長く続く土手を歩いていくと、だんだん遠くに家が見えてくる景色が描かれています。春風橋の名称はこの句にちなんで名付けられました。



あおさぎ はぎ  
夕風や 水青鷺の 脛をうつ

水辺に佇むアオサギのあし(脛)に、水面を渡ってきた夕方の風が吹き付ける一瞬が読まれています。今も淀川でそんな情景を見られるかもしれません。



- 大東地域歩こう会 (2月)



くす かな  
楠の根を静にぬらすしぐれ哉

冬のはじめにしとしと降る静かな雨が、楠の根元をそっと濡らしています。雨が降ったら、城北緑道の楠を見て当時の様子を想像してみてください。

